

いくとぴあ食花体験農園で野菜栽培活動に取り組みました

新潟市中央区にある「いくとぴあ食花 体験農園」に、新潟食料農業大学専用区画を設けていただき、学生たちが夏野菜の栽培に取り組みました。育てた野菜は、オクラ・枝豆・小玉スイカ・ミニトマト・バジル・なす・ピーマンです。

畝立てから始まり、種まき、苗の植替え、支柱立て、平時の水やりを経て収穫となりました。収穫した野菜を使ったお料理教室も胎内市で開催され、子どもたちが参加してくれました。

4月～約5ヶ月間、体験農園の隣の区画をお借りし、作業させていただき、大学の圃場とはまた違った、貴重な経験の場となりました。



5 2025年度上期 キャリア支援について

この春の卒業生143名のうち、就職希望者は132名、うち3月末まで就職者は132名、就職内定状況は100.0%となりました。そのほかの11名は、大学院への進学3名、専門学校への進学が1名、帰国留学生5名、その他2名となりました。

教員、キャリア支援課によって構成されるキャリアセンターでの学生支援、そして最終的には学生自身の努力が結実した結果と考えています。現在、第5期生（2026年3月卒業予定）が就職活動中です。10月1日の内定解禁に向けて、3年次から就職活動に関する多様なセミナーを実施、その他情報提供等により、卒業後の進路支援を行って参りました。今回は、その一部をご紹介いたします。

■インターンシップ参加への支援

近年、就職活動の早期化は当然のこととなり、就職活動におけるインターンシップ（IS）の重要度はさらに高まっています。学生にとってIS参加は業界・企業に対する視野を広げる大きなきっかけとなります。そこで、キャリアセンターでも実施企業の情報提供や提出書類の添削などを通してIS参加への支援をより充実させています。インターンシップ参加は3年次の夏を中心としますが、近年は低学年からの参加可としている企業も増加しています。低学年からのインターンシップ参加を実施することで、就職活動を有利に進められるよう支援しております。

■エントリーシート作成

就職活動において、第一関門となるエントリーシート（ES）です。ESが多様化する中、近年はWebから直接入力するタイプやオープンESといった、データ型のESが一般的になりました。キャリアセンターでは職員全員が学生の個性を活かしたES作成補助及び添削を行い、書類選考の通過率向上に努めています。

フットサル部創部決定！

2026年4月に指定強化部としてフットサル部が活動をスタートすることとなりました。フットサル部の運営・強化については一般社団法人FSVスポーツアカデミー（ヴィンセドール白山／代表 鈴木修平）と業務提携契約を締結しています。フットサル部の強化にとどまらず、フットサルと農業のコラボレーションによる地方創生に向けた取り組みも展開する予定です。

監督には山田秀哉氏が就任することが決定しています。来年のフットサル部の活動にご期待ください。



6 メールアドレスのご登録のお願い

会員の皆様とのより効率的かつスピーディな情報共有を目的に、会員の方のメールアドレスを収集させていただいております。

右記のURLまたは二次元コードよりご登録いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

【登録フォームURL】

<https://forms.office.com/r/dmikaZXG5>

登録フォーム
二次元コード



橙 和 —TOWA—

Vol.12 2025年度上期号
新潟食料農業大学 大学だより



『地域学』

- 1 後援会会长あいさつ
- 2 学長あいさつ
- 3 後援会役員名簿
- 4 新潟食料農業大学ニュース
<2025年度上期>
- 5 『地域学』授業紹介
- 6 留学生&日本人学生
交流会

- ・村上市大須戸
さくらんぼまつり
- ・いくとぴあ食花体験農園での
野菜栽培活動
- ・フットサル部創部決定
- 5 2025年度上期 キャリア支援
について
- 6 メールアドレスご登録のお願い



橙和…一期生による造語。本学のイメージカラーであるオレンジと、その実が春先から夏場にかけては青く、秋には見事に熟す「橙」を自分たちの成長になぞらえ、そしてその「和」が永遠(とわ)に続くように、との願いを込めています。

1 後援会会長あいさつ



新潟食料農業大学 後援会会長
岩川 佳明

本年度より新たに後援会会長に着任しました岩川佳明と申します。会員の皆様には、日頃より本学へのご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

新潟食料農業大学後援会は、「大学の教育・研究事業を援助し、大学の発展に寄与すること」を目的として活動しております。2025年度上期は、地域と連携した実践的な取り組みや学外での学生の活躍が目立った半年であったと感じています。

6月に本学で開催された今年度第1回目のアグロフードセミナーでは「食で世界を変える、新潟から。」をテーマに、食・農・ビジネスの現場で活躍する方々をお招きし、地域資源を活かした新たな産業創出やフードテックの可能性について、充実した議論が交わされました。

8月に東京ビッグサイトで開催された大学見本市では、地域由来の微生物を活用した清酒酵母の実用化に関する本学からの展示が注目を集め、企業や自治体の方々との意見交換が活発に行われたということです。五泉地域で見つかった酵母を活かした商品開発や、地域資源を活かした地域振興の可能性について、期待の高まりが感じられます。

学外での学生たちの活動も活発で、日本菌学会大会や日本冷凍空調学会などの発表は、学生が大きく成長する機会となったようです。また、「大須戸さくらんぼまつり」「アグリパークのマルシェ」などへの出店を通して、学生は地域の方々と直接交流しました。これらの経験は、教室での学びを社会に還元する貴重な場になると思います。

これら以外にも企業との共同検討、自治体との協働プロジェクトなど、学生が実務に触れる機会が多いことは本学の大きな教育特徴であり、今後も推進されることを願って支援していきたいと思います。

会員の皆様におかれましては、ご助言やボランティア・地域との連携提案は大きな力になりますので、ぜひお気軽にお寄せください。秋以降も新たな取り組みや公開講座、地域イベントへの参加が予定されております。どうぞ引き続きご注目ください。

2 学長あいさつ



新潟食料農業大学 学長
中井 裕

本学は、開学以来8年目に入り、教育、研究ともに、順調な歩みを続けています。4月には大学院博士課程に2期生を迎え、学部から大学院までさらに充実しています。

本学は開学以来「地域まるごとキャンパス」のフレーズのもと、学生たちはキャンパスを飛び出して地域社会に学ぶ姿勢をとってきたが、ますますその特徴が発揮されています。自主的に発足、組織化されたクラブやサークルは、いまや20以上あり、どれもが活発で目覚ましい活動をしており、多くは地域に密着して活動しています。

地域の関係者と連携して、イタリア野菜の栽培や収穫体験会の開催、胎内市の幻の柿「伝内柿」をテーマにした市民向け公開講座の開催、胎内市チューリップフェスティバルをはじめ各種地域イベントへの出店、胎内市の小学生向け料理教室の開催、卒論の1期生、2期生が完成させた村上茶ハーブティーを3期生が村上ほうじ茶ハーブティーに商品化、さらに4期生が越後姫紅茶ストロベリーティーの商品化に成功しました。胎内市大長谷集落、鼓岡集落等草刈りサポート、胎内高原ワイン用ブドウ収穫ボランティア、糸魚川市での「棚田みらい応援団」への参加、粟島浦中学校と連携した「さつまいも米粉クッキー」の商品化、胎内市議員との「胎内市をもっと魅力的な市にするには?」の意見交換など幅広い活動が行われています。

なお、村上茶ハーブティーと清酒しおのくらの森は村上市および胎内市のふるさと納税返礼品にリストアップされていますので、遠隔地の保護者の皆様も入手可能です。

また、スポーツ活動も、引き続き盛んです。よき指導者の下、自主性を活かした活動を行っています。自転車競技部は登録選手数では全国の大学で3番目の規模に成長し、インカレ2025ロードレースでは、各大学出場枠8名のフルエントリーを創設以来初めて果たしました。男子ラグビー部は2024年度に統いて3部で優勝し、入れ替え戦を制して2部に昇格して強豪大学に挑んでいます。柔道、陸上競技も素晴らしい成績を残しています。とくに陸上部の競歩には世界陸上金メダリストの鈴木雄介氏を専属コーチとして迎え、7人の新入部員の活躍が期待されます。

地方公共団体、民間企業との連携も盛んで、8月には株式会社ブルボンと連携協定を締結しています。また、本学の新潟食料健康研究機構や学部・大学院の研究成果を活かしたアグリフォーラム(公開)も引き続き好評です。また海外との提携では、タイのキングモンクット工科大学トンブリ校と提携し、今年度は海外研修として訪問予定です。フィリピンのネグロス島におけるバランゴンバナナの栽培中に起こる感染に対する予防のための研究を進めるためにセントラル・フィリピン州立大学と提携しました。

マーケットイン、フードチェーン、美学の重視と自由、多様、創造を目指す「食の総合大学」として経済界からの評価も上々で、3月の卒業生たちは100%の就職実績を残しました。なかでも公務員志望者が増えており、2024年度卒業生は農林水産省に1名、新潟県に6名などが公務員となり、2025年度の公務員試験合格者は、農林水産省1名、新潟県3名、北海道、青森県、鶴岡市各1名などです。時は移り時代は変わっていきます。今後も、「変えなければならないこと」と「変わらなければならないこと」を峻別して、日本と世界に貢献する人材を育てていきたいと考えます。

皆様方には、これまで以上のご支援をお願い申し上げます。

3 後援会役員名簿

役職名	会長	副会長	副会長	理事	理事	理事	理事
	氏名	岩川 佳明	水越 亜希子	大井 聰	佐藤 輝子	榎本 智	箕輪 栄市
在学生の所属	食料産業学科 4年	食料産業学科 3年	食料産業学科 3年	食料産業学科 4年	食料産業学科 3年	食料産業学科 3年	食料産業学科 2年
役職名	理事	理事	理事	理事	監事	監事	(敬称略)
	氏名	渋谷 忠人	小池 正巳	高井 武志	高橋 直樹	坂井 美恵子	山田 悅子
在学生の所属	食料産業学科 2年	食料産業学科 1年	食料産業学科 1年	食料産業学科 1年	食料産業学科 2年	食料産業学科 3年	

(補足) 後援会事務局：種畠 賢二（新潟食料農業大学 事務局長） 江口 五郎（新潟食料農業大学 学務部長） 奥村 雄一（新潟食料農業大学 社会連携推進部長）

4 新潟食料農業大学ニュース <2025年度 上期>

ピックアップ授業紹介！「地域学」

今年度より新規開講したビジネスコース3年生選択科目の「地域学」を紹介します。この授業では、地域の歴史的形成過程や現状について、フィールドワークを通じて多角的かつ実証的に読み解きながら、地域が直面する課題の構造的把握とその解決に向けたまちづくりプランの提案に取り組んでいます。今年度の研究フィールドは新潟キャンパスに近接する、南浜船だまり周辺です。



初！屋外で留学生&日本人学生交流会

7月9日(水)に「留学生&日本人学生交流会」を開催しました。毎年2回開催している交流会ですが、今回、初めて屋外で開催し、焼きそば作りをしました。一緒に作った焼きそばをおいしく話しながら食べて、交流を深めるとともに、軽音サークルの演奏もあり、とても楽しい会となりました。

現在、中国、ベトナム、インドネシア、ネパール、スリランカ、バングラデシュ、モンゴル、香港、アメリカ、マレーシア、シンガポール、イランなど、さまざまな国・地域から多くの留学生が日本人学生と共に学んでいます。授業以外でのこのような機会でより親睦を深められたようでした！



学生大活躍！村上市大須戸さくらんぼまつり

6月22日(日)に、村上市大須戸地区にて「大須戸さくらんぼまつり」が開催されました。学生たちは、春先からのさくらんぼ栽培にもボランティアとして参加し、地域の方々と交流しながら、花粉付け・ネット張り・摘果・収穫・梱包などの作業や、田植え活動をしました。お祭り当日は、早朝から収穫・梱包し、販売。たくさん用意された朝採りさくらんぼでしたが、販売開始前から行列になっていたこともあり、あつという間に完売しました。また、栽培ボランティアに関わっていた軽音サークルのメンバーは、お祭りのステージで演奏しました。楽しいお祭りでした！

